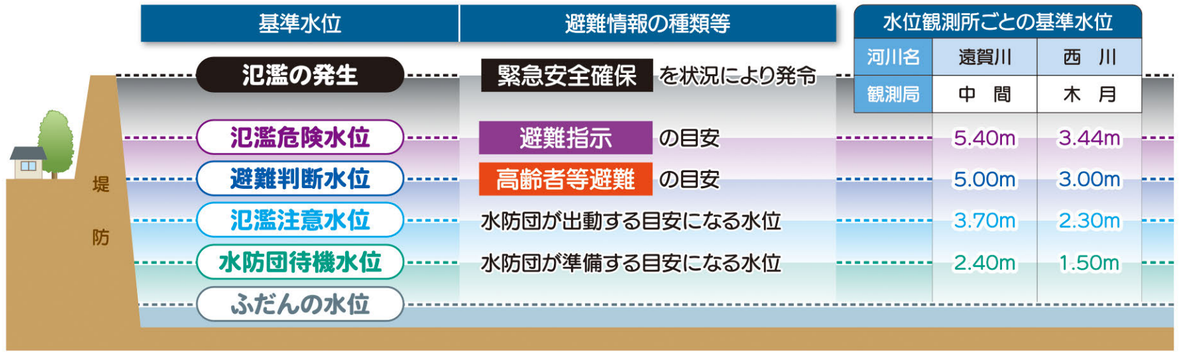
## 最近の豪雨の傾向

近年、これまでに経験したことのないような豪雨が各地で頻発しています。これには、地球温暖化等による気候変動が影響していると考えられています。そのひとつの兆候として、昔に比べて豪雨の発生回数が大幅に増加している点が挙げられます。1976年から2020年までの間、日本全国で1時間に50㎜以上の短時間強雨を記録した回数の統計では、以前（1976年～1985年）は平均226回であったものが、近年（2011年～2020年）は平均334回と約1.4倍に増加しています。

## 洪水時の避難情報発令の目安

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。



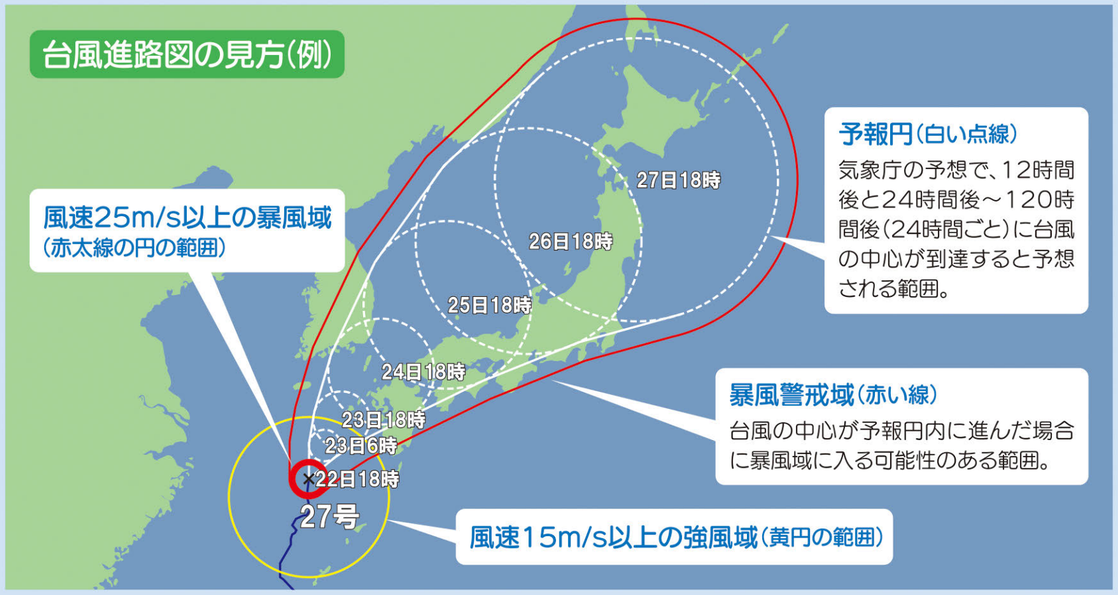

## 雨の強さ、降り方と災害の危険性等

| | やや強い雨 | 強い雨 | 激しい雨 | 非常に激しい雨 | 猛烈な雨 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1時間雨量と予報用語 | 10～20mm未満 | 20～30mm未満 | 30～50mm未満 | 50～80mm未満 | 80mm以上 |
| 人の受けるイメージ | ●ザーザーと降る。 | ●どしゃ降り。 | ●バケツをひっくり返したように降る。 | ●滝のように降る。（ゴーゴーと降り続く） | ●息苦しくなるような圧迫感がある。<br>●恐怖を感じる。 |
| 人への影響と屋外の様子 | ●地面からのはね返りで足もとがぬれる。 | ●傘をさしていてもぬれる。<br>●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。 | ●道路が川のようになる。 | ●傘はまったく役に立たなくなる。<br>●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 | |
| 災害の危険性 | ●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。 | ●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。<br>●小規模のがけ崩れのおそれがある。 | ●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。 | ●土石流が起こりやすい。<br>●多くの災害が発生する。 | ●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。 |

表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

## 台風が近づいたら　気象情報に注意

台風はその襲来時期や規模、被害の程度などの予想が可能なため、事前の対策次第で被害を軽減することができます。台風が近づいたら、気象情報に十分注意し、適切に対応しましょう。




## 土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、福岡県と福岡管区気象台が共同で発表する情報です。土砂災害警戒情報の発表に伴い、避難情報の発令が基本となっていますので、土砂災害に厳重に警戒し、安全な場所へ避難しましょう。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、早めの避難行動をとりましょう。

▼土砂災害の危険度情報は、福岡県がインターネットで公開している「土砂災害危険度情報」で確認することができます。

福岡県土砂災害危険度情報　検索　http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/sp/dosya/riskmap.html

## 土砂災害から身を守るために

災害では早めに避難することが大事ですが、どうしても避難場所への移動が困難なときは、次善の策として近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所（がけから離れた部屋や2階など）に避難しましょう。

**3つのポイント**

- 住んでいる場所が「土砂災害（特別）警戒区域」かどうか確認
- 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意
- 危険を感じたら早めに避難

避難場所等への移動がどうしても困難な場合は…